

研修議事録

日 時	平成30年12月6日（木）14時～17時	場 所	堺市産業振興センター
参加人数	78名	講師名	伊丹 昌一 氏
テーマ	子どもの気になる行動を理解する		

◎行動を見て気になる行動を変えていく

- ・気になる行動は、意味を理解することで修復が可能である。

行動を理解するために、

行動の手がかりやきっかけ→子どもの行動→行動の後の対応や結果

この3つのポイントで子どもの行動の意味を理解する。

- ・行動の前後に目をむけていく。
- ・かわいそうな子どもはいない。かわいそうだからと言って何も言わないのは×。努力もせずに手にいれていることは、子どもに主導権を持たせてしまっている。
- ・指吸いなどの感覚欲求は、無理やり直そうとするのは無理である。何か代わりにするものを見つけようとする。
- ・回避・逃避欲求の子どもは、その子現在の目標が高すぎるので下げる。成功させて徐々にあげていく。
- ・分析したらどう変えていくのか→まずは前後のかかわりを少しずつ変える。子どもだけに努力はさせない。「子どもの行動」を変えるためにはまず大人のかかわり方を変えることが大切である。
- ・子どもの前で残念な顔をしない。→マイナス評価につながってしまう。

◎誤りやすい保育し行動例

- ・悪いことをしたら良いことが起こる。
- ・良いことしたのに悪いことが起こる。
- ・何をしても悪いことが起こる。

厳しくしつけをしようとする保育士がさらに問題となる行動の項目を増やす。

◎プラスの行動で変えていく

- ・ほめ方・しかり方 ほめているつもり、しかっているつもりでも子どもにとっては、逆になっていることがある。どんなにほめても喜ばないのは、愛着・虐待を受けている可能性がある。
- ・上手にほめるコツ

視線を合わせる 表情は穏やかに！ 子どもが好むタッチングを入れて 子どもの分かりやすい言葉で

- ・子どもの視点でほめる。

ほめることは、叱ることより難しい。ほめた自分をほめないと子どもをほめることはできない。ほめることがないと言われる子には、完璧を求めすぎない。どんなささいなことでも今よりもいいことをしたらほめる。（トラブルなく遊べるなど）

- ・トークンボードを活用する。

子どもの好きなキャラクターなどのシールを貼っていく。今どこまですすんでいるかが視覚的にもはっきりする。

- ・いつもほめていて大丈夫か？→ほめられることに慣れてしまうと、ほめないとしなくなる。

計画的にほめる 2週間続ける→2回に1回これを1週間→次の週3回に1回→その行動をするのが楽しくなる＝社会的強化

◎パニックの消去

多くの場合、特製の強い子どものこだわりの修正でパニックに負けている場面をよく見る。こだわりは特性だからと放置すると対象が広がったり、他の子どもを巻き込んだりすることになる。

◎子どもに分かりやすいきっかけとは。

簡単ですぐ達成できる行動から、目標→成功させるために簡単にできるものをつくる。

◎指示の出し方は・・・おだやかに 近づいて 落ち着いた声で

同じ言葉を繰り返す。途中で口調や言葉をかえない。長い文章や理解しにくい言葉は×。

～誰かのために何かをすることで自尊心が育つ。笑顔を忘れずに！あたたかい園に！～

ご講義の最後に先生から「笑顔は子どもたちに届きます」の言葉にまたこれからも頑張ろうと感じました。行動には意味があり、それを理解する理由・対応を学びました。

